

シロアリ防除用 土壌処理剤

土壌処理用 **NEXUS**[®]
ネクサス^{SC}

®は日本農薬(株)の登録商標

(公社) 日本しろあり対策協会認定剤	登録番号 第3527号
(公社) 日本木材保存協会認定剤	認定番号 A-4265



日本農薬株式会社

はじめに

このたび私ども日本農薬は、高い殺虫活性で定評のあるフェニルピラゾール系に属する新規化合物として「ピリプロール」を開発し、新タイプのシロアリ防除剤「ネクサス」シリーズとして販売するに至りました。大切なお住まいをしっかりと守る優れた防蟻性能、居住者・作業員への安全性、環境負荷の低減などをテーマに開発した製品です。

土壌処理剤「ネクサス SC」は、施工業者様からのご意見を基に、新築・既設住宅の予防施工は勿論、駆除施工を含めたシロアリ防除のあらゆるシーンにおいて最適な性能を追求し開発を進めてまいりました。ネクサス SC は、有効主成分「ピリプロール」にネオニコチノイド系アセタミプリドを配合することにより、私どもがハイブリッド効果と名付けたユニークな作用機構を備えた非忌避性剤です。このハイブリッド効果とは、薬剤散布後の初期と中後期に於いて、経時的に殺虫作用がシフトするというものです。急なシロアリ駆除が望まれる現場では、初期効果としてアセタミプリドの速効性がいち早く作用し、その後、長期残効性に優れた主成分「ピリプロール」の遅効性が徐々に発現するという作用により、あとから家屋へ侵入してくる別のシロアリ集団に対しても、仲間同士のグルーミング行動により薬剤が広く伝播され、コロニーの壊滅に至らしめる2ステージの効果が期待できます。

製品名の「ネクサス」には「連鎖」や「絆」という意味があります。有効成分「ピリプロール」の特長である優れた伝播効果で連鎖的にシロアリを退治し、大切なお住まいの保守に貢献させていただくことで、お客様との信頼の絆を深めてゆきたい！そんな願いを込め命名いたしました。

これからも日本農薬は、長年にわたる農薬開発事業で培ってきた技術を発展させ、生活環境改善に貢献する優れた製品の開発・提供を続けてまいります。

本資料は、「ネクサス SC」の技術説明を行ったものであり、ご使用に際してユーザーの皆様のお役に立てて頂ければ幸いです。

目 次

はじめに	1
I. ネクサス SC の概要	
(1) 特長	3
(2) 組成・性状等	3
(3) 入れ目・包装形態	3
(4) 用法・用量	3
II. ネクサス SC の防蟻性能（認定試験成績）	
(1) 室内試験	4
(2) 野外試験	4
III. ネクサス SC の防蟻性能（社内試験結果）	
(1) ネクサス SC の防蟻効力速度試験	5
(2) 土壌処理後のコンクリート流し込みによる防蟻効力試験	5
(3) コンクリート表面処理後の防蟻効力試験	7
IV. ネクサス SC の安全性	
(1) 安全性試験結果	8
(2) 居住者への安全性概要	8
(3) 気中濃度測定試験結果	9
V. 耐アルカリ性能比較試験	10
VI. ネクサス SC の土壌移行性	11
VII. ネクサス SC の土壌中における有効成分残存率測定	11
VIII. ネクサス SC の各種部材への影響	12
IX. ネクサス SC の使用上・取扱い上の注意	13

I. ネクサス SC の概要

(1) 特長

- フェニルピラゾール系新規化合物ピリプロール配合による非忌避性防蟻剤
- 2つの防蟻有効成分配合によるハイブリッド効果で素早く・広く・長く効く
- 安全性（作業員・居住者）に優れた低臭・低VOC製剤
- 希釈しやすく、希釈液の安定性に優れた使いやすいフロアブル製剤
- ベタ基礎物件でも安心な優れた耐アルカリ性（ピリプロール）
- 注ぎやすく、廃棄しやすい減容ポリ容器入り

(2) 組成・性状等

- 組成（有効成分）：ピリプロール 2.5%
アセタミプリド 0.5%
- 使用濃度：ピリプロール 0.05%
アセタミプリド 0.01%
- 希釈倍数：50倍希釈（原液1部：水49部）
- 比重：1.04（20℃）
- 外観：淡褐色粘稠懸濁液体
- 毒劇物区分：非該当
- 危険物区分：非危険物
- 魚毒性：A類相当
- 認定：（公社）日本しろあり対策協会 登録番号 第3527号
（公社）日本木材保存協会 認定番号 A-4265

(3) 入れ目・包装形態

- 入れ目：2ℓ×6本／ケース
- 包装形態：潰しやすく廃棄の容易な減容ポリ容器を使用
注ぎやすい脈動防止機能付き容器

(4) 用法・用量

- 使用希釈倍数：水で50倍に希釈（原液1部：水49部を混合攪拌）
※容器を良く振ってから作業液を調製してください。
作業液調製の際は良く攪拌し、使用中もポンプ循環等で適宜攪拌してください。
作業液は、必要量をその都度調製し、その日のうちに使い切ってください。
- 使用散布液量：土壌面状処理 3ℓ／㎡
土壌帯状処理 1ℓ／m（20cm幅）
※施工に当たっては、製品のラベルを良く読むとともに、（公社）日本しろあり対策協会の「防除施工標準仕様書」および「しろあり防除施工における安全管理基準」を熟読し、理解したうえでご使用ください。

Ⅱ. ネクサス SC の防蟻性能 (認定試験成績)

(1) 室内試験 (土壌穿孔阻止効果)

薬 剤：ネクサス SC

試験方法：(公社) 日本木材保存協会
規格「土壌処理用防蟻剤等
の試験方法及び性能基準
JWPA-TS (1) (2011)」 準拠

試験機関：近畿大学農学部
森林生物化学研究室

試験年度：2014 年

薬 剤：ネクサス SC

試験方法：(公社) 日本木材保存協会
規格「土壌処理用防蟻剤等
の試験方法及び性能基準
JWPA-TS (1) (2011)」 準拠

試験機関：独立行政法人 森林総合研究所
木材保存研究室

試験年度：2014 年

処理区分	番号	穿孔距離 (mm)	穿孔度	死虫率 (%)	備考
処理区	1	10	2	100	1 週間以内に 全数死亡
	2	14	2	100	
	3	14	2	100	
	4	12	2	100	
	5	9	1	100	
無処理区	1	50	5	15	4 時間以内に 貫通
	2	50	5	13	
	3	50	5	20	
	4	50	5	18	
	5	50	5	10	

処理区分	番号	穿孔距離 (mm)	穿孔度	死虫率 (%)	備考
処理区	1	5	1	100	
	2	5	1	85	
	3	8	1	84	
	4	6	1	100	
	5	13	2	100	
無処理区	1	50	5	15	24 時間以内に 貫通
	2	50	5	13	
	3	50	5	20	
	4	50	5	18	
	5	50	5	10	

(2) 野外試験

薬 剤：ネクサス SC

試験濃度：ピリプロール 0.05%+ アセタミプリド 0.01%

試験方法：(公社) 日本木材保存協会規格「土壌処理用防蟻剤等の試験方法及び性能基準
JWPA-TS (1) (2011)」 準拠

試験機関：近畿大学農学部森林生物化学研究室

試験場所：鹿児島県南さつま市金峰町近畿大学野外しろあり試験地

試験期間：2012 年 4 月～ 2014 年 4 月

処理土壌区番号	木材片の食害の有無	
	1 年目	2 年目
1	なし	なし
2	なし	なし
3	なし	なし
4	なし	なし
5	なし	なし
備考	無処理土壌区の木材片および試験区周辺に埋め込んだ無処理杭は激しい食害を受けた	

Ⅲ. ネクサス SC の防蟻性能 (社内試験結果)

(1) ネクサス SC の防蟻効力速度試験

試験場所：日本農薬(株) 総合研究所

供試虫：イエシロアリ (*Coptotermes formosanus*) 職蟻 10 匹

試験方法：シャーレに土壌(真砂土)を 25 g (5mm厚) 入れ、所定濃度に希釈した薬剤を 3 ℓ / m³ 相当処理した。その後、イエシロアリ (10 匹) を放虫した。

調査方法：所定日に死亡虫数+異常虫率を調査し算出した。

試験条件：恒温室 (25℃ / RH60%)

試験規模：1 区 1 シャーレ 2 連制

結果・考察

薬剤	濃度 ppm	イエシロアリ (職蟻 10 匹 / 2 連制)										死亡+異常虫率 (%)	
		10 分	20 分	30 分	40 分	50 分	60 分	90 分	120 分	180 分	240 分	360 分	1 日
ネクサス SC	※ 500 + 100	0	0	40	55	75	90	100	100	100	100	100	100
ピリプロール	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	100	100
アセタミプリド	100	0	0	35	40	70	85	95	100	100	100	100	100

※ネクサス SC50 倍希釈 (ピリプロール 500ppm + アセタミプリド 100ppm)

アセタミプリドは接触後 90 分でほぼ全頭が速効的に異常症状を示したのに対し、ピリプロールは 360 分で遅効的に全頭が異常症状を起こした。

従って、ネクサス SC の初期・速効性はアセタミプリドの効果によるものと考えられる。

(2) 土壌処理後のコンクリート流し込みによる防蟻効力試験

試験目的：土壌処理直後のコンクリート流し込みを想定した防蟻効力を確認する

試験場所：日本農薬(株) 総合研究所

供試虫：イエシロアリ (*Coptotermes formosanus*) 職蟻 10 匹

試験方法：ポリスチレンビーカー (径 17cm、深さ 15cm) の容器底部に穴をあけ、濾紙をひいた後に真砂土を 10cm 入れ、50 倍希釈のネクサス SC を 3 ℓ / m³ 相当処理した。1 日後、上部よりコンクリートを 5 cm 流し込み硬化させ、40℃・1 ヶ月間恒温保管した後、コンクリートを取り除き土壌を上層 (4 cm) と下層 (4 ~ 10cm) に区分し、シャーレ内に移し替え供試虫を放虫した。

試験条件：恒温室 (25℃ / RH 60%)

試験規模：1 区 1 ビーカー 2 連制 検定：1 区 2 シャーレ連制なし / 1 ビーカー

結果・考察

薬剤	試験区	連制	イエシロアリ (職蟻 10 頭)					
			上段 / 死亡率			下段 / 死亡 + 異常虫率		
			1 時間	2 時間	3 時間	6 時間	24 時間	48 時間
ネクサス SC (50 倍希釈)	上層 (0 ~ 4 cm)	1	0	0	0	75	85	90
			0	0	50	100	100	100
		2	0	0	0	55	85	100
			0	0	5	100	100	100
	下層 (4 ~ 10 cm)	1	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0
		2	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0

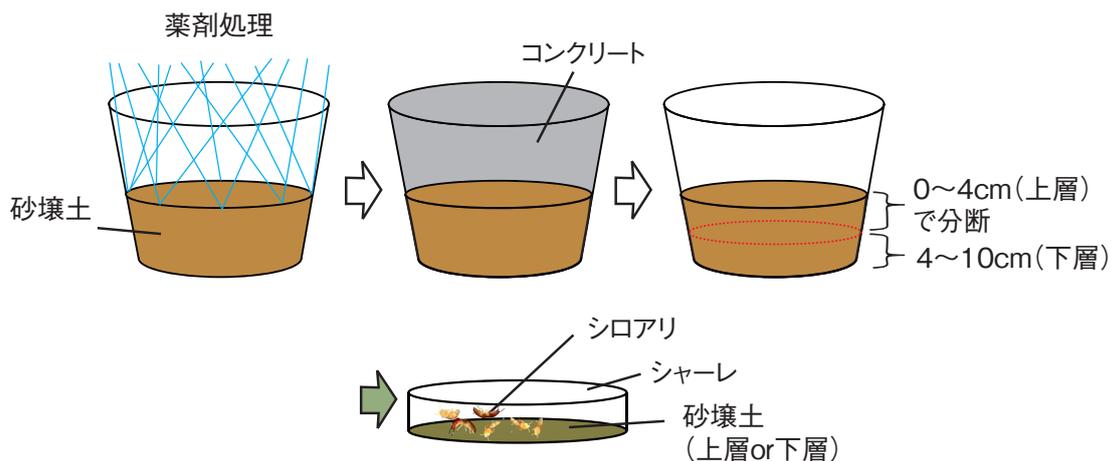
上層区はコンクリート流し込みの影響により、直接強アルカリと接触する過酷な条件であるが十分な効力が残っており、供試虫は 48 時間以内にはほぼ全頭死亡する結果となった。

殺蟻効力の発現速度よりアセタミプリドは分解が進み、ピリプロールの効果が発現していると考えられる。

一方、下層区では供試虫の死亡は認められず、薬剤は上層のみに留まり、下層には到達していないことが示唆された。

従って、土壤処理後に直接コンクリートを流し込み、且つ 40℃・1 ヶ月間の恒温保管後の過酷な条件下でも十分な残効性を有することが確認された。

試験手順概要



(3) コンクリート表面処理後の防蟻効力試験

試験目的：新築ベタ基礎物件における強アルカリ条件（コンクリート表面処理）を想定した防蟻効力を確認する

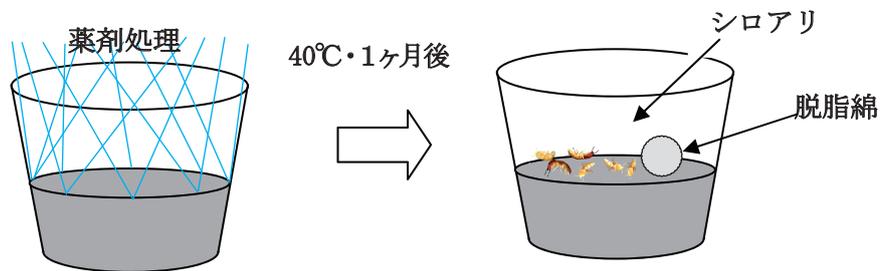
試験場所：日本農薬（株）総合研究所

供試虫：イエシロアリ (*Coptotermes formosanus*) 職蟻 100 匹、兵蟻 10 匹

試験方法：ポリスチレンビーカー（径 17cm、深さ 15cm）にモルタルを 5cm 厚で流し込み、1 日経過後、50 倍希釈したネクサス SC を 3 ℓ / m² 相当処理した。40℃・1 ヶ月間恒温保管した後、コンクリート上面にイエシロアリを放虫し、湿った脱脂綿片（水 3ml 滴下、水分補給用）を設置した。

試験条件：恒温室（25℃ / RH 60%）

試験規模：1 区 1 ビーカー 2 連制



結果・考察

薬剤 希釈倍率	連制	イエシロアリ（職蟻 100 頭、兵蟻 10 頭）				
		上段 / 死亡率		下段 / 死亡 + 異常虫率		
		1 時間	2 時間	3 時間	6 時間	24 時間
ネクサス SC (50 倍希釈)	1	0	0	0	30	100
		0	0	20	100	100
	2	0	0	0	74	100
		0	0	0	100	100
無処理	1	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0

コンクリート表面上の強アルカリ条件下でも安定した殺蟻効力を有することが確認された。

6 時間で異常虫率が 100% となったことから、速効性の有効成分アセタミプリドは強アルカリの影響によりほぼ効力が失われていると推察されるが、ピリプロールの優れた耐アルカリ性と残効性によりシロアリ全頭が死滅したと考えられる。

Ⅳ. ネクサス SC の安全性

(1) 安全性試験結果 (製剤)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 急性経口毒性 (ラット) | : LD ₅₀ > 2,000mg/kg |
| <input type="checkbox"/> 急性経皮毒性 (ラット) | : LD ₅₀ > 2,000mg/kg |
| <input type="checkbox"/> 皮膚一次刺激性 (ウサギ) | : 刺激性なし (原液) |
| <input type="checkbox"/> 眼一次刺激性 (ウサギ) | : ごく軽度の刺激性 (原液)
無刺激物 (50倍希釈液) |
| <input type="checkbox"/> 皮膚感作性 (モルモット) | : なし (陰性) |
| <input type="checkbox"/> 水生生物への毒性 | : A類相当 |
| コイ急性毒性 | : LC ₅₀ 値 (96hr) 205mg/L |
| オオミジンコ急性遊泳障害 | : EC ₅₀ 値 (48hr) 27mg/L |
| <ピリプロール> | <アセタミプリド> |
| <input type="checkbox"/> 変異原性: なし (陰性) | <input type="checkbox"/> 変異原性: なし (陰性) |
| <input type="checkbox"/> 発ガン性: なし (陰性) | <input type="checkbox"/> 発ガン性: なし (陰性) |

(2) 居住者への安全性概要

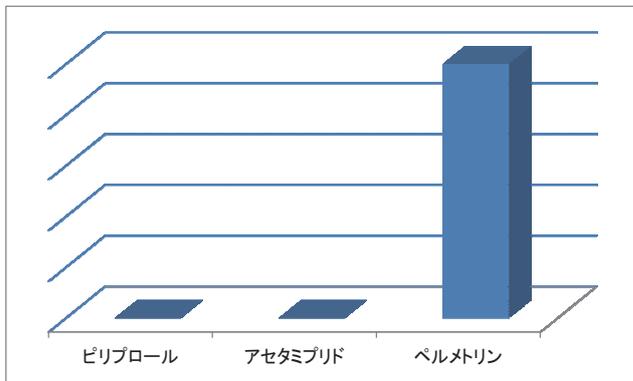
ネクサス SC の有効成分はいずれも蒸気圧 (揮発性) が極めて低く、散布作業中でも居室の空気中に有効成分が揮散しないため、居住者やペットにも安全・安心です。

また、ネクサス SC は厚生労働省において室内濃度指針値が設定されている下記 VOC13 物質を使用しておりません。

室内濃度指針値 (厚生労働省設定) VOC13 物質 (シックハウスの原因と考えられる物質)

- | | | | |
|-------------|--------------|------------------|----------|
| ・ホルムアルデヒド | ・エチルベンゼン | ・テトラデカン | ・フェノブカルブ |
| ・トルエン | ・スチレン | ・フタル酸ジ-2-エチルヘキシル | |
| ・キシレン | ・クロルピリホス | ・ダイアジノン | |
| ・パラジクロロベンゼン | ・フタル酸ジ-n-ブチル | ・アセトアルデヒド | |

ネクサス有効成分の蒸気圧



ネクサス SC の有効成分ピリプロール・アセタミプリドは、代表的な合成ピレスロイド系殺虫剤ペルメトリンよりもはるかに蒸気圧が低い。

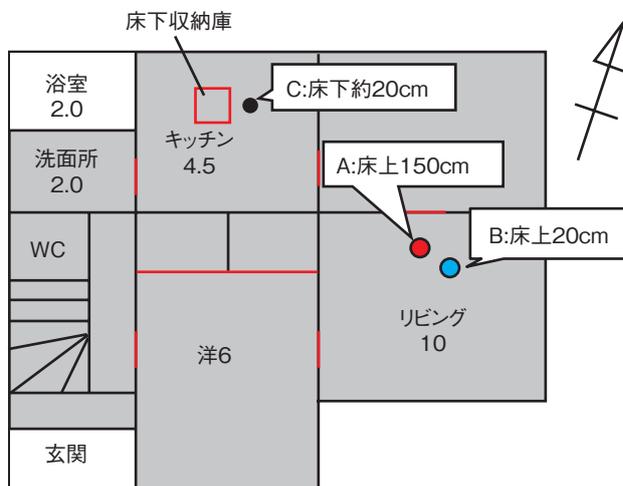
居住者・作業者に対して安全性が高く極めて揮散しにくい化合物です。

ペルメトリン : 0.1hpa
アセタミプリド : $< 1.0 \times 10^{-8}$ hpa
ピリプロール : $< 8.08 \times 10^{-8}$ hpa

(3) 気中濃度測定試験結果

下記物件の着色部分にネクサス SC 実用希釈液（水で50倍希釈）を散布した。床上についてはリビングの床上150cm地点（A）、床上20cm地点（B）を測定点とした。

床下については、床下収納庫（キッチン）近くの床から下20cmの地点（C）を測定点とした。



試験場所：東京都内一般木造住宅

散布濃度：50倍希釈濃度

散布条件：床下土壤に3ℓ/m³相当量を散布処理

採取方法：床下および床上（リビング）の空気を2ℓ/分で100分間吸引し、吸収管に有効成分を吸着

分析方法：ピリプロール/高速液体クロマトグラフィー、ヘキサコナゾール・IPBC/ガスクロマトグラフィー

結果

成分名	経過時間	定量限界値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) *	床上 150cm (A)	床上 20cm (B)	床下 20cm (C)
ピリプロール	散布直後	0.2	検出せず	検出せず	検出せず
アセタミプリド	散布直後	0.1	検出せず	検出せず	検出せず

※定量限界値：ピリプロール⇒ 1立方メートル中1000万分の2グラム相当量
アセタミプリド⇒ 1立方メートル中1000万分の1グラム相当量

全て検出限界以下であり、作業中・居住者への安全性が高い。

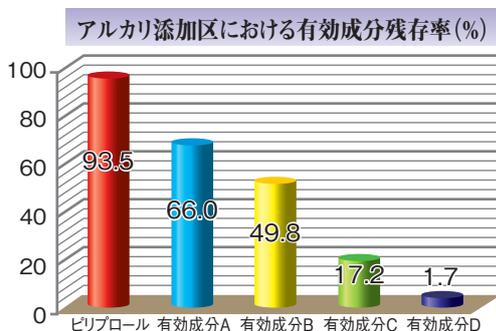
V. 耐アルカリ性能比較試験

試験場所：日本農薬（株）総合研究所

試験方法：サンプル瓶に供試薬剤の実用濃度希釈液 6.3 g を入れ、飽和水酸化カルシウム水溶液又は水を 2 g 加える。（アルカリ処理区：> pH12）

混合後、蓋をして 21 日間 50℃ で保管した後、薬剤中の有効成分残存率を比較測定。

結果・考察



有効成分	Initial 対比残存率	
	水添加区	アルカリ添加区
条件	50℃・21日	50℃・21日
ピリプロール	100.0%	93.5%
有効成分 A	98.7%	66.0%
有効成分 B	92.0%	49.8%
有効成分 C	91.7%	17.2%
有効成分 D	80.1%	1.7%

水添加区における各有効成分残存率の大きな差は認められなかったが、アルカリ添加区において、ピリプロールは他の防蟻有効成分と比べ優れた耐アルカリ性能を有することが確認された。

※新築ベタ基礎完成後の施工において、基礎内に雨水などが溜まっている場合は、予め水分を排出しコンクリート表面が乾いてから処理を行ってください。

Ⅵ. ネクサス SC の土壌移行性

試験方法

- ① 真砂土を恒温気 120℃で十分に水分を飛ばす。
- ② セルロースチューブ（内径 15mm×高さ 350mm）の一端に脱脂綿を詰め、反対側から真砂土を深さ 30cmになるように充填する。
- ③ ネクサス SC50 倍希釈液（実用使用濃度）を 3 ℓ / m³相当を処理。
- ④ 希釈液処理 1 日後、上部から蒸留水を約 1 ml / 時間で 80 時間（計 80ml）を滴下する。滴下スピードをあらかじめ調整の上、カラム下部には流出水を受ける三角フラスコを設置。
- ⑤ 滴下終了後、表層から 5 cm毎に土壌を取り分け、各層の有効成分分布を測定。

結果・考察

土壌カラム	有効成分の分布 (%)	
	ピリプロール	アセタミプリド
0 - 5 cm	93.4%	N . D
5 - 10cm	6.6%	N . D
10 - 15cm	N . D	N . D
15 - 20cm	N . D	N . D
20 - 25cm	N . D	N . D
25 - 30cm	N . D	N . D
流出水	N . D	100.0%

アセタミプリドは完全に流亡して流出水のみで検出されたが、土壌中の微生物等により速やかに分解される性質を有するため、環境への影響はほとんどないと考えられる。一方、主成分のピリプロールは 5 - 10cm 層で僅かに検出されたが、過酷な試験条件下でもほとんどが最上層（0 - 5 cm）で留まることが確認された。従って、ピリプロールは土壌吸着性が高く、雨水等の水分による移行はほとんどなく安定していることが確認された。

Ⅶ. ネクサス SC の土壌中における有効成分残存率測定

ネクサス SC の土壌微生物による影響確認のため、各区土壌中における有効成分残存率の測定試験を行った。

試験方法

- ・ No.11 規格瓶に土壌を分析点数分秤とる。(1 区 3 連制)
- ・ ネクサス SC50 倍希釈液を土壌に定量処理
(± 1kg に対して希釈液 100mL を想定)
- ・ 各サンプルを 20℃の恒温状態で所定期間保存し、保存後土壌中の有効成分残存率を測定する。

河内長野土壌（畑地）における有効成分残存率（％）

温度	有効成分	初期濃度 (%)	有効成分残存率（％）			
			4日後	7日後	14日後	30日後
20℃	アセタミプリド	0.0107	8.0	3.4	0.0	0.0
	ピリプロール	0.0510	94.9	91.6	91.5	87.2

宝塚土壌（宅地）における有効成分残存率（％）

温度	有効成分	初期濃度 (%)	有効成分残存率（％）			
			4日後	7日後	14日後	30日後
20℃	アセタミプリド	0.0107	52.4	31.7	11.5	2.3
	ピリプロール	0.0510	100.0	93.7	92.5	96.9

考察

アセタミプリドは、微生物が多いとされている畑地土壌では7日程度、一般的な宅地土壌では、おおよそ30日前後で消失した。一方、ピリプロールは、微生物による影響は少なく、土壌中での高い安定性と残効性を示唆する結果となった。従って、ネクサス SC の初期速効性の持続期間は、一般的な宅地土壌では、処理後おおよそ30日前後と推測され、その後は、伝播性と長期残効性に優れたピリプロールの効力へ移行するものと考えられる。

Ⅷ. ネクサス SC の各種部材への影響

試験方法：浸漬法

ネクサス SC50 倍希釈液に 25℃で 1 週間浸漬させ、目視にて影響の有無を確認。尚、比較のため水についても同様の試験を実施。

部材	希釈液	水
塩ビ管	変化なし	変化なし
白ガス管	僅かに変色あり	僅かに変色あり
軟質塩ビ電気コード	変化なし	変化なし
断熱材（EPS）	変化なし	変化なし
断熱材（XPS）	変化なし	変化なし
鉄釘	錆発生（水と同等）	錆発生
散水ホース（耐薬耐油）	変化なし	変化なし
散水ホース（耐寒）	変化なし	変化なし

鉄釘で錆発生が見られたが、水と同等であることから薬剤の原因ではなく水の影響によるものと考えられる。

その他の供試部材ではほとんど変化なく実用上問題ないと考えられる。

Ⅸ. ネクサス SC の使用上・取扱い上の注意

1. 使用方法

- 1) 原液を水で50倍に希釈(適切な容量のタンクに施工必要量の49部の水を入れ、本剤〔ネクサスSC〕1部を加えた後良く攪拌混合する)し、動力噴霧機または手動噴霧器にて土壤表面に希釈液を散布する。

(標準使用量)

面状散布は3ℓ/m²とする。

建物基礎内側、束石の周り、配管などの立ち上がり部分の土壤に带状散布する場合、壁際から20cm幅に1m当たり1ℓの割合で散布する。

- 2) 本剤はフロアブル製剤であり、本剤希釈液を静置すると成分が徐々に沈降する。使用に当たっては次の注意事項を守る。

動力噴霧機を使用する場合、循環により希釈液を攪拌しながら散布する。

手動噴霧器を使用する場合、適宜容器を揺する等して希釈液を攪拌しながら散布する。

2. 使用上の注意

- 1) 定められた用法・用量を守り、所定の用途以外の目的には使用しないこと。
- 2) 使用の際は、適切な保護具(防護マスク、保護メガネ、ゴム手袋、長袖・長ズボンの作業着、作業帽、作業靴等)を着用し、飛散する薬剤を吸入したり、直接皮膚に付着しないよう注意すること。
- 3) 本剤が皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合は直ちに石けんと水で良く洗い落とすこと。万一皮膚に異常を感じた場合は、直ちに医師の診療を受けること。
- 4) 本剤原液は眼に対し刺激性があるので、保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合は、直ちに清浄な流水で15分以上洗眼(眼球、まぶたの隅々まで水が良く行きわたるように洗う)した後、眼科医の診療を受けること。
- 5) ジンマシン、カブレ、気管支喘息、アレルギーなどを起こしやすい体質の人、過去に塗料・洗剤・薬剤等によるアレルギー症状(発疹、カユミ等)を経験された人は取り扱い及び作業をしないこと。
- 6) 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取り扱い及び作業をしないこと。
- 7) 床下等、風通しの悪い空間で作業する場合、換気を行うとともに長時間の連続作業を避けること。
- 8) 作業中、皮膚への刺激を感じたり、体調の異常を感じた場合は、直ちに作業を中止して医師の診療を受けること。
- 9) 誤飲に注意すること。誤飲した場合は水で良く口の中を洗い、カップ1～2杯の水を与え、直ちに医師の診療を受けること。なお、意識のない時には口から何も与えてはならない。
- 10) 養殖池・河川・湖沼・井戸等に飛散・流入し、汚染する恐れがある場所では使用しない。
- 11) 使用残りのないように調製し使い切ること。
- 12) 既存建物の作業に際しては、居住者が薬剤に暴露されないよう注意すること。食品、食器、飼料(ペットの餌等)、家具、家電製品、玩具、寝具、衣類、愛玩動物、観賞魚、植物、貴重品、美術品、楽器等は予め他へ移すか、格納する等、薬剤がかからないようにすること。
- 13) 建物内部の部材表面、外装材、塗装面、石材、モルタル壁、白木、自動車等に薬剤が付着しないよう、覆い等の処置をしてから作業すること。
- 14) 作業中は、飲食・喫煙をしないこと。
- 15) 作業中に誤って薬剤をこぼしたり、散布装置の噴射方向を間違えないよう注意すること。

3. 使用後の注意

- 1) 作業後は身体の露出部分を速やかに石けんと水で良く洗い、うがい・洗顔をして衣服を着替えること。作業時の衣服等は他のものと分けて洗濯すること。
- 2) 使用後の作業液の残りや本剤を使用した機械器具類の洗浄廃液は次回散布時の薬液調製に使用し、河川・湖沼・下水道等公共水域や、地下水を汚染する恐れのある場所に捨てないこと。
- 3) 使用後の空容器は放置せず、水で洗い（洗浄液は次回散布時の薬液調製に使用する）、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する等、適切に処理し、他の目的に使用しないこと。

4. 保管上の注意

- 1) 盗難、紛失、流出などの事故防止に努めるとともに、薬剤は最後まで本容器のまま保管し、移し替え、小分けでの保管はしないこと。
- 2) 食品、食器類、飼料、ペットの餌等と厳重に区分し、密栓して、小児の手の届かない鍵のかかる保管庫に保管すること。
- 3) 火気を避け、雨水や直射日光の当たらない乾燥、冷涼な場所に保管すること。
- 4) 万一本剤が漏洩した場合は、吸収性の媒体、例えば砂・ポロ布・オガクズ等に吸収させ、汚染の広がりを阻止して回収する。回収した薬剤は都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する等、適切に処理すること。

5. 居住者および近隣に対する注意

1) 施工前に事前の調査確認を十分行うこと。

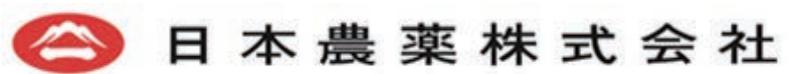
- ① 居住者の健康状態を可能な限り把握し、健康被害の発生を未然に防止すること。
- ② 施工前に居住者に対し薬剤に関する事前説明を十分に行うとともに、アレルギーや化学物質過敏症などの人がいないか確認し、健康被害の発生を未然に防止すること。
- ③ 乳幼児、妊婦、病人、体調の悪い人、ペット等は薬剤の影響のない場所に移動させること。
- ④ 隣家や周囲の住人に対し施工実施を周知するとともに、①～③の事項を居住者同様実施し、健康被害やトラブルの発生を未然に防ぐこと。

2) 施工中の注意

- ① 作業中は小児や散布に関係のないものやペットが作業現場に近づかないよう十分注意すること。
- ② 防護シートを掛ける等の養生を行い、薬剤が周囲に飛散しないよう十分注意すること。

3) 施工後の注意

- ① 居住者に対し、施工後の換気を良く行うよう適切なアドバイスを行うこと。特に、臭いの感じ方には個人差が大きいため、当日だけでなく翌日以降も換気を心がけるようアドバイスすること。なお、換気に際しては隣家や周囲の住人に対する配慮を心がけるようアドバイスすること。
- ② 万一体調の異常など健康被害が生じた場合は、早めに医師の診療を受けるようアドバイスをすること。
- ③ 居住者が不必要に床下に入らないようアドバイスするとともに、犬・猫等のペットが床下に入らないよう、施工後しばらくの間安全な場所に繋いでおくか、開口部に侵入防止の措置を行ってもらうようにすること。



化学品本部 化学品部

〒104-8386 東京都中央区京橋1-19-8

TEL 03-6361-1417 FAX 03-6361-1454

ホームページアドレス <http://www.nichino.co.jp/>